

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）  
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和5年5月末	令和5年8月末	令和5年11月見通し	令和6年2月見通し
±0トン 〔 2107千トン〕 (100.0%)	-56トン 〔 2051千トン〕 (97.3%)	-22千トン 〔 2029千トン〕 (98.9%)	-14千トン 〔 2015千トン〕 (99.3%)
2124千トン (100.8)	2129千トン (103.8)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和5年6月末	令和5年9月末	令和5年12月見通し	令和6年3月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は141,000円。前期比-1,000円。大型建築物は堅調だが中小物件は人手不足や資材価格高騰から着工延期や計画見直し等が散見された。市中在庫は需要低迷の影響から若干増加。メーカーの値上げ玉が入り価格転嫁は難航し下値は上がりつつも需要停滞のためため上値が上りきれない。収益状況は若干悪化。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,800円。前期比-1,200円。建築分野も夏の猛暑の影響で人手不足等による工期遅れ、計画見直し等が散見。スポット的な中小物件は若干出たが、全体的な需要が潤うまでには至っていない。まとまった量の物件では安値が散見。流通は価格維持に尽力した。	多少なり荷は動いたようだが、秋需の盛り上がりは全くなく例年になく低調であった。少ない需要の中、在庫は多くないが、過剰ぎみに感じられている。中小建築案件は相変わらず少なく大型物件は資材高騰や人手不足により延期や中止も出ている。市況について上値は重いままだが下値より推移しているため売り越しを維持している。年内は様子見で推移していくだろう。	建築物はある程度出てくると思われるが、人手不足により工期が長期化され、需要が細分化されるのではないかと。また、新規の見積りに安値が散見されるため、金額に見合わない物件は延期や中止も出てくるだろう。メーカー値上げも予想され市況はある程度下支えされるが、2024年の物流問題もあり、運送費の上昇も流通の大きな負担となり、価格転嫁の厳しさは増すだろう。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

10月の仕入量は162,811トン前月比+2.4%、前年同月比-2.4%、販売量は168,158トン前月比+5.7%、前年同月比-4.3%。前月比において仕入量、販売量ともに増加、前年同月比においては仕入量、販売量ともに減少となりました。在庫量は208,127トン前月比-2.5%、前年同月比-2.9%、在庫量は前月比、前年同月比ともに減少しました。在庫率は123.8ポイントと下降しました。10月販売量は前年同月比減少しており、例年になく乏しい秋需で市況も下押しとなっています。

## 4. 大阪

10月・11月は需要期でもあり、荷動きは増加。12月は出荷減少予想もH形鋼の出荷予想は前期比・前年同期比ともプラスと好調。建築関係は遅れていた案件が動き出したとの声が聞かれ出荷に貢献している。

一般鋼も前期比・前年同期比ともにプラスと増加。市中在庫は少なく補充の動きもあり荷動き堅調。丸鋼・構造丸も倉出しは底を脱した感じで少しだけ秋需。

需要見通しは、1月～2月は不需求期で稼働日も少ない事から出荷は減少見込み。建築向けは、人手不足から工事が遅れている分、仕事量は大きな落ち込みはなく、稼働日減少なりの出荷量が予想されます。